

1. 簡単な波形をとってみよう！

ここでは、簡単な実験を通して POS-4 の基本的な使いかたを説明します。

〈内容〉

- ・ POS-4 の接続方法
- ・ ソフトの起動方法
- ・ ソフトの使いかたと、レンジの変え方

〈実験内容〉

LED の点灯・消灯を、ボタンスイッチで操作する回路を使って実験してみました。

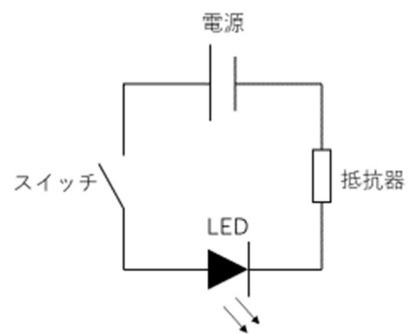
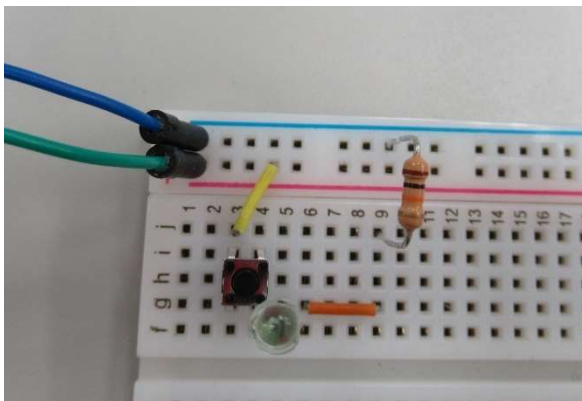


図 1-A. 作成した回路

POS-4 は USB Type-B を使用しパソコンと接続します。



図 1-B. POS-4 との接続イメージ

ソフトウェアのインストール・起動方法に関しては

[POS-4 インストールマニュアル for Windows10 \(32bit\)](#)

[POS-4 インストールマニュアル for Windows10 \(64bit\)](#)

をご覧ください。

1 - 1. Run/Stop 切り替え

○の部分の表示が

「Run」の場合は、波形を停止させた状態です。

「Stop」の場合は、取得した波形が順次表示されています。

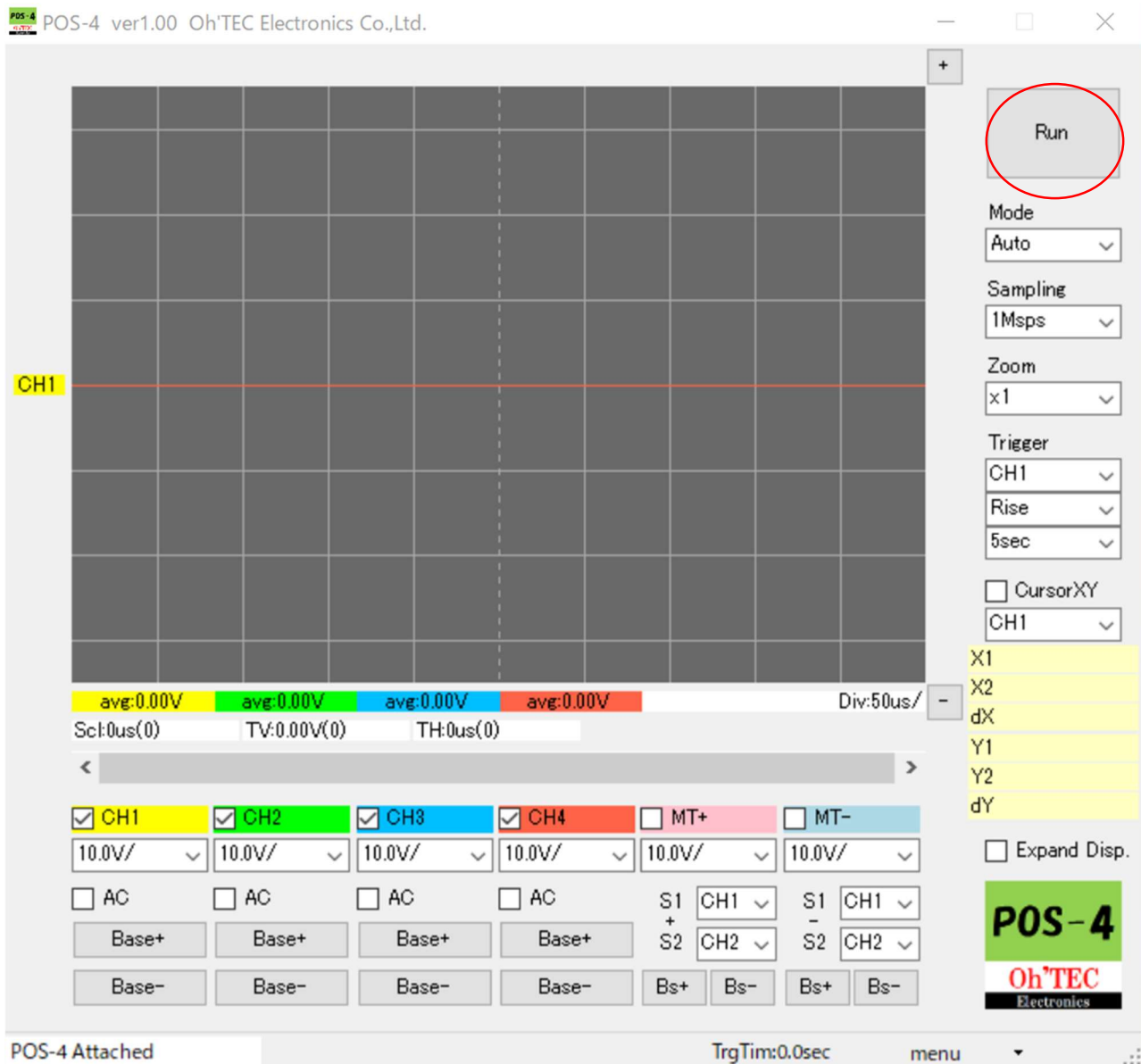


図 1-C. Run/Stop 切り替え

1 - 2. CH.操作

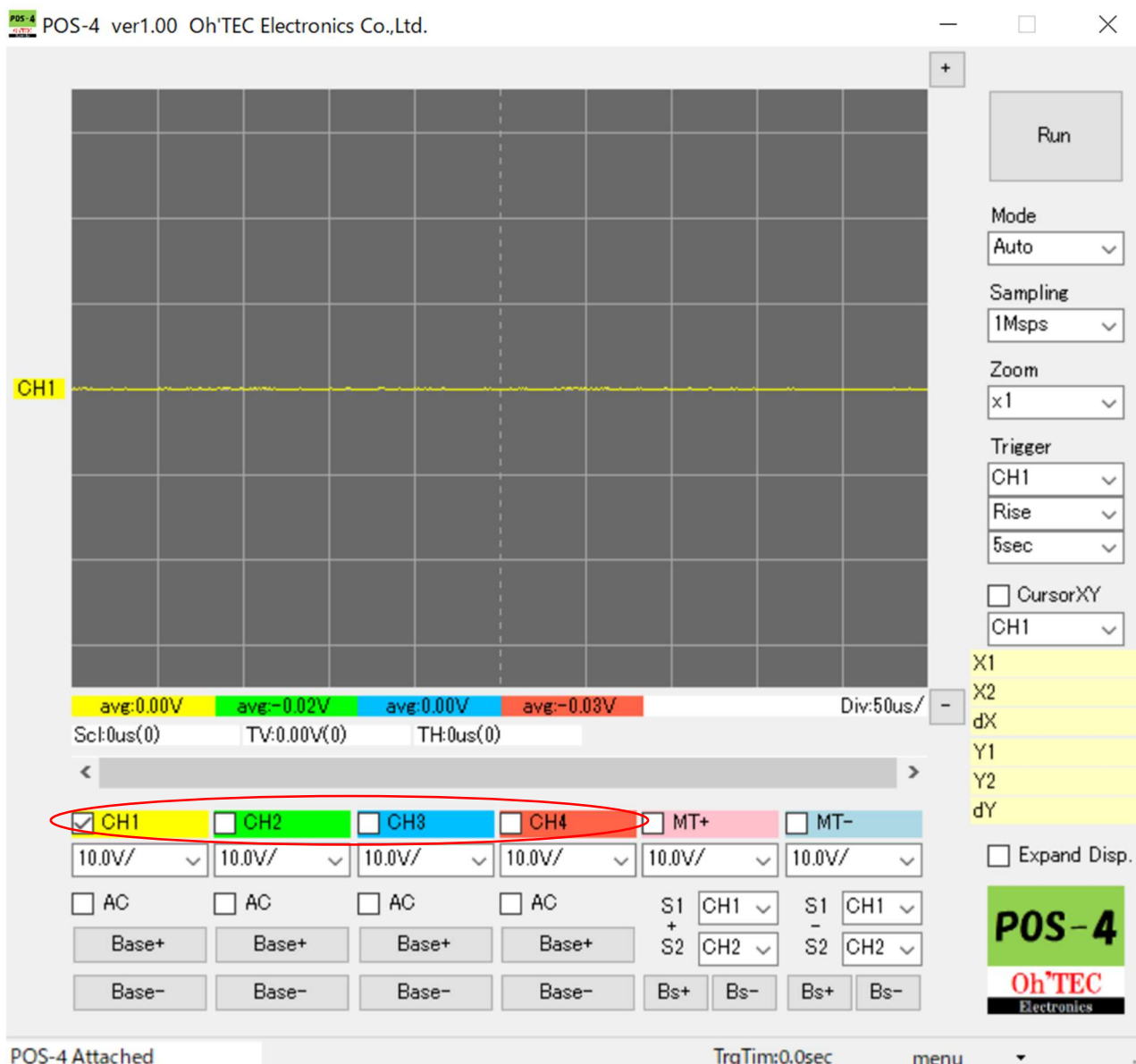


図 1-D. Ch. 切り替え

図 1-D の○の部分のチェックボックスの ON/OFF を切り替えることで表示したいチャンネルを切り替えることができます。

波形表示を CH1 のみに切り替えたい時は上図のように CH1 のところだけにチェックを入れます。

1-3. POS-4 回路接続・波形取得

図1-Eのようにプローブを接続してみました。

波形の変化を見てみましょう。

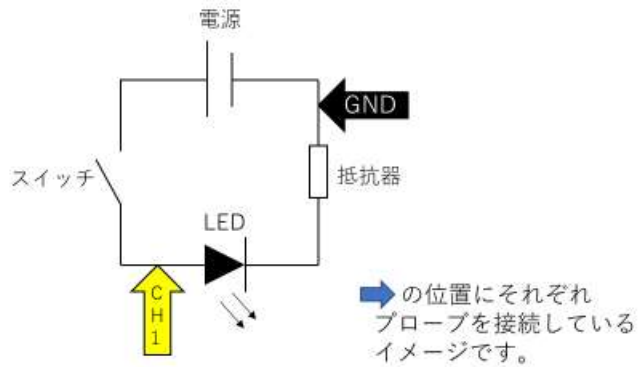
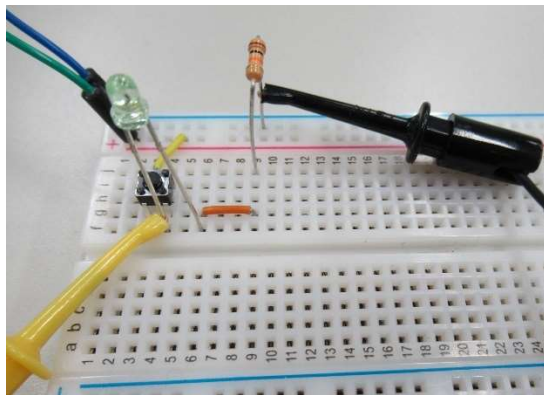


図1-E. プローブ接続イメージ

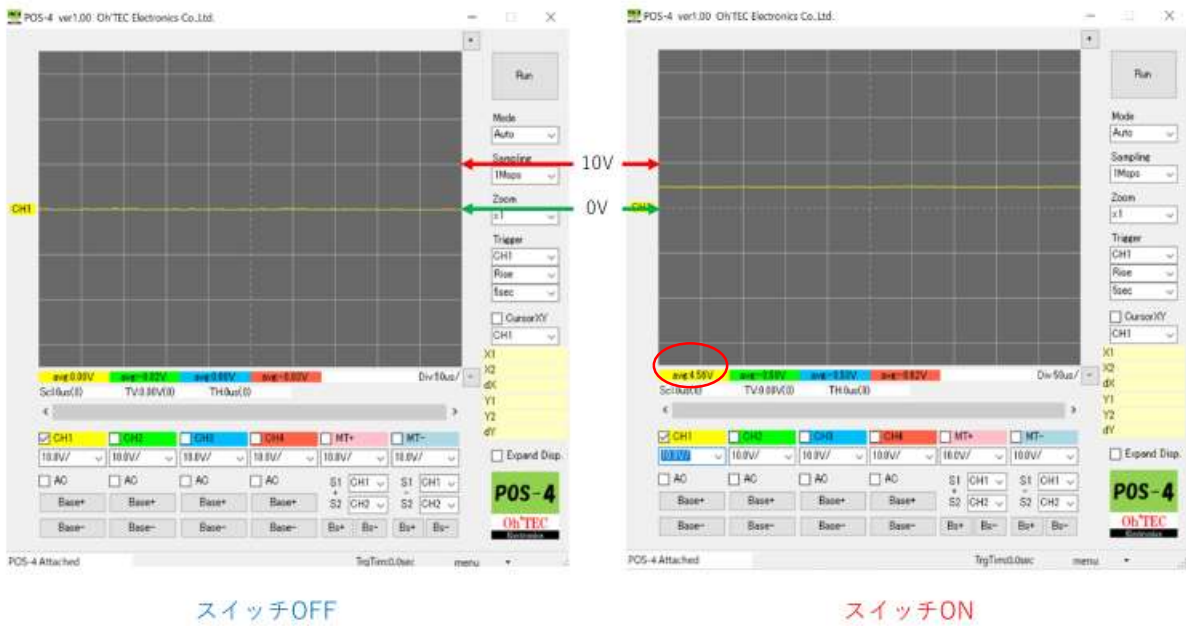


図1-F. 出力波形の変化

図1-Fでは、1マス10Vのレンジ設定になっています。

スイッチONのとき波形の位置が約4.5Vの位置に表示されています。

また、スイッチON画面の○の位置に avg4.56V と表示されています。

これは、CH1のプローブで読み取った波形の平均が4.56Vであることを示しています。

1-4. レンジ変更方法

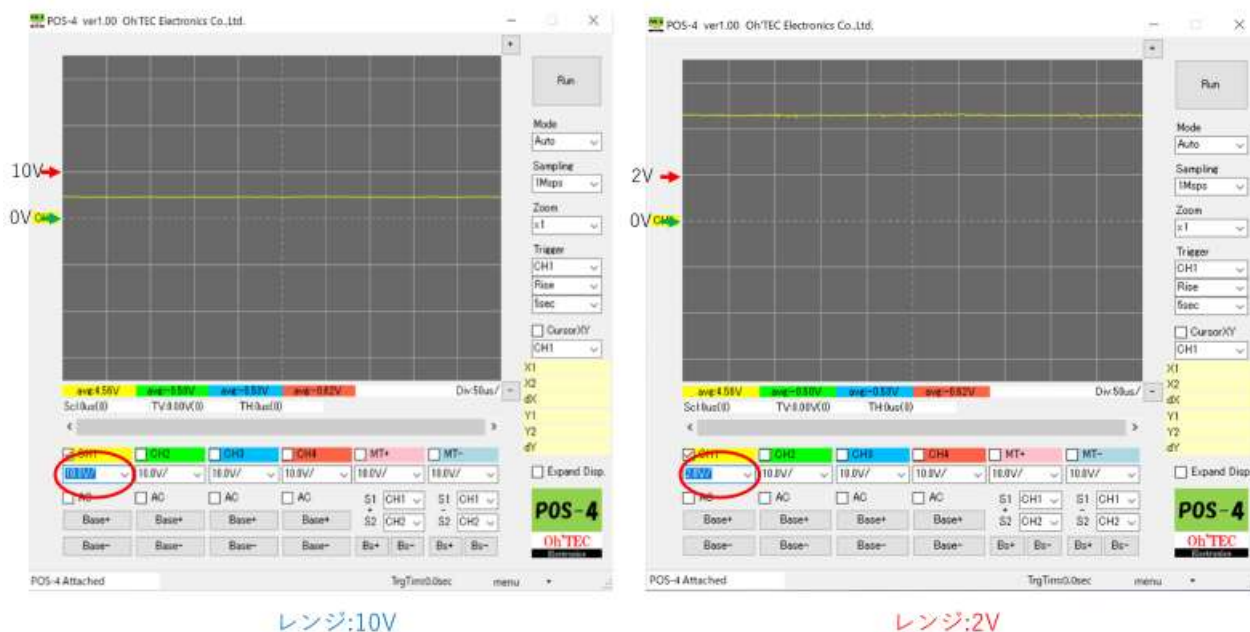


図 1-G. レンジ変更

表示画面のレンジは取得した電圧の大きさに応じて変更すると波形が見やすくなります。

図 1-G の○のプルダウンメニューにてレンジ設定を変更することができます。

また、現在のレンジはプルダウンメニューの欄に表示されます。

以上が POS-4 の基本的な使いかたでした。